

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	16-024	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol consumption and prevalence of erectile dysfunction in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: Baseline data from the Dogo Study. 2 型糖尿病患者における飲酒と勃起不全との関連～道後研究～		
執筆者		
Furukawa S, Sakai T, Niiya T et al.		
掲載誌		
Alcohol. 2016 Sep;55:17-22. doi: 10.1016/j.alcohol.2016.07.006.		
キーワード	PMID	
勃起不全、糖尿病、飲酒	27788774	
要 旨		
目的： 2 型糖尿病患者における、飲酒と勃起不全との横断的関連を明らかにすること。		
方法： 19-70 歳の 2 型糖尿病患者に血液検査および質問紙を用いた調査を実施した。勃起不全は男性性機能診断スコア（Sexual Health Inventory for Men Score）8 点未満で定義した。飲酒は、頻度および量（週あたりおよび 1 日あたり）それぞれに応じて群分けされ、非飲酒者を基準としたロジスティック回帰分析により勃起不全リスクを算出した。年齢、Body Mass Index、糖尿病罹病期間、喫煙、高血圧、脂質異常症、冠動脈疾患、脳卒中の既往、HbA1c、糖尿病性神経障害・網膜症・腎障害の既往で調整したオッズ比も算出した。		
結果： 勃起不全有病者は 147 名（43.2%）。飲酒頻度および週あたり飲酒量はどちらも勃起不全と負の関連がみられた（傾向性の P 値はそれぞれ 0.001、0.004）。1 日あたり飲酒量と勃起不全には逆 J カーブの関連がみられた。すなわち、1 日 60g 未満飲酒群で最も勃起不全リスクが低値であった。		
結論： 日本人 2 型糖尿病患者男性において、1 日あたり飲酒量と勃起不全には逆 J カーブの関連がみられた。一方、飲酒頻度および週あたり飲酒量に関しては、頻度・量が多くなるほど勃起不全リスクが低値であった。		